

# 福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館 ニュース



発行 (財) 第五福竜丸平和協会  
連絡所 〒136-0081 東京都江東区 夢の島3-2  
都立第五福竜丸展示館内 電話 03-3521-8494

二〇〇一年一月、日本原水協の派遣した「マーシャル・ロンゲラップ島民との連帯・交流代表团」の一員として、マーシャル諸島を初めて訪問した。同国のロンゲラップ環礁は、一九五四年三月一日にアメリカが爆発威力一五メガトンのブラボー実験を行ったビキニ環礁の東方一五〇〜一八〇kmに位置する。実験当時、第五福竜丸はビキニ環礁の東方一五〇kmにいた。そのため実験の数時間後、第五福竜丸の場合同じく同様に、ロンゲラップ環礁には放射性核分裂性生物を含んだ白い粉(俗に「死の灰」)が降り注いだ。

実験の五一〜五四時間後までに島民は避難させられ、三月四日までに全員がロンゲラップ環礁の南方二七〇kmにある米軍クワゼレン基地に収容された。妊婦はヘリコプターで、その他の島民は船で避難させられたという。検査はされても治療らしい治療をほとんど受けることなく、三ヵ月後には島民はマジュロ環礁エジツト島に移住された。米国の「安全宣言」によってようやく二五〇人の島民が故郷のロンゲラップ環礁に戻ってきたのは、実験から三年以上も経った一九五七年六月のことであった。

しかし帰島後、流産や死産、異常時の出産あるいは甲状腺異常や白血病など、ブラボー実験以前にはほとんど見られなかった異常事態や疾病が相次いだ。そのため一九八五年五月、三二五人の島民は先祖伝来の環礁を棄て、自らの意思でクワゼレン環礁メジャット島に移ったという。



一九九九年三月、無人のロンゲラップ環礁を安全に居住できるようにするための第一段階の工事が始まった。第一段階

## 今なお核兵器大国の横暴に苦しむマーシャル

野口 邦和

階でロンゲラップ島に空港や道路などの基礎的施設の建設を二〇〇一年三月までに終了し、第二段階で同島の汚染除去と復興を行い、二〇〇二年に島民を同島に帰島させる計画だという。しかしロンゲラップ島以外は、汚染のひどい同環礁北部の島々はもちろんのこと比較的汚染の低い同環礁南部の島々も含めて、なんにも手がつけられていない状況にある。これでは島民が安全に生活できる保障はないではないか、といわざるをえない。

マーシャル諸島といえば、最近では米本土ミサイル防衛(NMD)開発にともなう迎撃実験場として知られている。カリフォルニア州バンデンバーグ空軍基地から敵のミサイルにみまてた大陸間弾道ミサイル(ICBM)「ミニットマンII」を発射し、約二〇分後に七〇〇km離れた米軍クワゼレン基地から迎撃ミサイルを打ち上げる実験を行っている。迎撃実験のたび、航空機の航行は禁止される。核兵器大国の横暴の犠牲になったマーシャル諸島の国民の苦しみは、現在も続いている。

(日本大学・放射線防護学)

## ボランティアの会・学習交流会

この四月からスタートした第五福竜丸展示館でのボランティア協力員による学習・交流会が七月十一日におこなわれました。

この日は六人のボランティア、岡本英明、遠藤昌樹、青木桂子、大幡嘉子、米内達成、高橋良雄の各氏と平和協会から川崎会長、山村理事、安田、米内事務局員が出席しました。会は川崎会長が核兵器をめぐる最近の注目すべき事態として、ミサイル防衛構想を中心にした核保有国と同盟国のうごきについて報告。つづいて安田事務局員より展示館の現状とボランティアのとりくみについて報告があり、昼食をはさんで意見交換をおこないました。

各ボランティアからは、説明の際に使えるブラボーショットの写真など説明パネル数点を作成してほしい、学習の機会を定期的につくりたい、教科書で第五福竜丸がどのように扱われているか検討したい、展示館を訪れる学校ごとの第五福竜丸での学習実践をあつめ

## 焼津の最中『祈り船』

二面掲載の飯塚利弘さんのご寄稿文のなかに紹介されている、焼津・福田屋さんの「もなか」について、展示館でも取り寄せ、また福田屋さんの先代、福田民雄さん(七〇歳)にお話を伺いました。

福田さんは、戦後、父親と屋台を引いてお菓子の行商をしていたが、第五福竜丸が被災したころ念願の店舗を構えることができ、新たなお菓子の製造を考え、再びこのようなこと(被災事件)がないようにとの願いを込めて、船を型どった「もなか」を考え、題字を久保山すずさんに直接頼みに行つて、書いてもらったそうです。そのときのすずさんの反応について、昔のことで覚えていないと言いがら、「毛筆など書いたことがないからうまく書けないよ」と言われたとのこと。すずさんの書はいまもお店に額に入れられて掛けられているそうです。

## NHKがドキュメント『廃船』を放映

第五福竜丸が廃船になり夢の島に廃棄された一九六七年ごろから船を追い、保存運動が取り組まれていく過程と元乗組員などの表情を描いたNHKドキュメンタリー作品『廃船』(一九六九年三月放映、工藤敏樹プロデュース)が三年ぶりに再放送されます。

これは八月二六日(日)の午後十一時五〇分からの一時間半の番組で、放映の最後に現在の展示館の紹介と大石又七さんへのインタビューが放送されます。去る七月十三日、加賀美幸子アナウンサーと撮影スタッフが展示館を訪れ録



第五福竜丸とビキニ事件の新しい展示パネル

## DVDによる映画『第五福竜丸』が完成

DVDによる新藤兼人監督映画「第五福竜丸」は、アスミックエースから復刻発売されました。すでにお知らせしたように、現在の第五福竜丸展示館の紹介が平和協会川崎会長によりおこなわれています。また、新藤作品の原爆、被爆を扱った作品「原爆の子」「さくら隊散る」なども発売されます。価格はどれも四七〇〇円(税別)です。御希望の方は展示館までお問い合わせください。

七月の展示館から◇  
春の修学旅行シーズンが終り、六月末には今年度第一回の展示替えがおこなわれました(写真)。展示が明るくなった、解説の順序が系統だっついて分かり易いなど、概ね好評です。  
学校の夏休み期間は子どもたちの訪問がふえるので、毎日ボランティアの方々が詰めて子どもと話をしてくださいます。

画がおこなわれました。

# 焼津で久保山すずさんを 支え励ました利波多美さん

飯塚 利弘

長い間、焼津で原水爆禁止運動の先頭に立っていた利波多美（とみなみ）さん（元日本原水協全国理事・静岡県原水協顧問）が、二〇〇一年四月二十日に九四歳のひたむきな生涯を閉じた。

焼津の私たちは「弔詞」で、この敬慕してやまない大先輩の業績を偲んだ。

―世界を震撼させた第五福竜丸事件、「世界初の水爆犠牲者久保山愛吉氏未亡人」となった久保山すずさんは、日米政府の金による政治決着のため羨望・嫉妬の渦に巻き込まれ、心を深く傷つけられて、泣き崩れる日々を過しました。そのすずさんに寄り添い、励まし、支え、勇気づけ続けたのが、当時焼津中学校教師であった利波多美さんでした。その懸命な励ましに心打たれたすずさんは涙

を拭って立ち上がり、平和の語り部として歩み始めたのです。そして、利波多美さんも「おかあちゃん先生」として、大きく自分を飛躍させ、焼津の子らとの平和教育に、地域の平和運動に、尽きるここのない情熱を注いだのです。

きた利波さんは、久保山すずさんの心よりどころとなっていたのです。すずさんが日本の母親たちの代表としてエジプトのカイロ（第一回アジア・アフリカ諸国民連帯会議）へ出発したとき、後に残されたすずさんの三人の子どもたちを励ました利波さんの言葉を、今も長女みややさんははっきりと覚えていて、「お母さんもがんばっているんだからみややちゃんたちも頑張らなくちゃあ。寂しくてたまらなくなったら、こうして目の下を指でぐっと押さえて我慢するんですよ」。

―教員退職後は、焼津市市議会議員として、静岡県原水協代表委員として、利波多美さんの若々しい情熱と献身ぶりはますます高まっていったのです。利波さん、長い間ほんとうにほんとうに御苦労さまでした。向こうで久保山すずさんと会ったら、その歴史的な「久保山すずさんの道」「利波多美さんの道」を和やかに心ゆくまで話し合ってください。



# 核兵器を持っていることは 心の安心を得ること？ アメリカの高校生と交流



七月十八日、展示館をアメリカの高校生が訪れました。この高校生たちは、ワシントンDCにある二つの高校、シドウェル・フレンズ・スクールとウォークリップマン高校の生徒たちで、エリカ・カーリンさん、マーシャル・デュアバルキンドさん、カミロ・アコスタさん、アイマン・ベクダッシュジュさん、ポーラ・ドルフマンさん、ジミー・パークさん、サム・ブッフフォンさんと引率教師のアン・ワッサーマンさんの八人と日本側受け入れの日米文化センターのボランティアの学生四人です。

た方々に感謝 ジミー 展示館を見て核兵器の愚かさを感じた。世界的な政策として、核兵器をなくしていくべきだと思った。船を保存した人々と展示館をつくった人々に感謝したい。原水爆でひきおこされたことを伝えることはとても有意義だ。ポーラ 世界の人々にとりとても良い場所だ。多くの人は被害のことを知らないし、繰り返し実験がつづけられてきたことも知らないのだから。

核兵器は安全を守るため？ サム 日本は安全だと思った。アメリカは銃が横行しているが、それは他人が銃を持っており、自分を守るために持たざるを得ないという社会になっているからだ。核兵器を持つこともアメリカ国民を守るためにしかたがないのかもしれない。これは防衛のためであって決して使いたがっているわけではないんだ。

一行はまず川崎昭一郎平和協会会長の案内で、福竜丸と展示のパネル、資料などを見学。つづいて二時間にわたり、第五福竜丸の印象やうけた感動、核兵器問題について率直な話し合いがおこなわれました。川崎会長をはじめ展示館職員、ガイドボランティアなどがこれらの意見や質問に丁寧に答えました。

以下に高校生たちの意見をいくつか紹介します。船を保存し展示館をつくってくれ

彼等は、日本での日程の最後に八月六日、広島での平和祈念式典に参加します。

